

スマイルふぞく



附属の挑戦を続けます！

夏休みが明け13日ぶりに、子どもたちが給食を食べる姿、昼休みに遊ぶ日常が戻ってきたことを嬉しく思います。ここまでの保護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

さて、4日間のオンライン授業を経て、改めて子どもたちの姿から学んだことがあります。それは、これまでも大切にしてきた「自分で調べ考え、自らの結論を定めて伝える力」を子ども同士で伸ばしていく附属の学びを、更に向上すべきであるということです。

- ・「この時間に解決したいことは、こんなことです」
- ・「ちょっと悩んでいるので質問です」
- ・「もう少しノートにまとめる時間が欲しいです」
- ・「資料からこんなことが分かりました。みんなの考えは？」

こうした真剣な姿を画面越しに見ることができたのは、これまでの日常で培ってきた附属の学びが、子どもの中で活かされている証だと思えます。

小学校6年間で、勉強や運動など、何かに「没頭する」「熱中する」「夢中になる」状態を心の底から味わえる学校でありたいと願っています。そうした経験や没頭できるものがある子は、時にうまくいなくても、また何度でも挑戦するものを探せる逞しさが備わっていくと信じています。

そのために日々、明日に目を向け、進取改善の心意気で過ごしている附属教師たちが、引き続き挑戦を続けています。

節目の終業式まで「16日間」！

10月8日(金)は1学期終業式です。節目の日は、努力した自分にエールを送る時であり、自分を支えてくれた人に感謝する時でもあります。

成長するとは、「ありがとう」と言えることが増えることであると捉え、一つでも二つでも感謝できる場が増えていくよう、豊かな教育を目指し続けていきます。



楽しみだった給食を黙食する1年生



オンライン授業をする本校職員



ひたむきに子どもと向き合う実習生



2万冊の本を楽しみ選ぶ子どもたち

新しい授業様式

オンライン授業の初日の朝。各教室では、画面越しに、子どもたちが担任の先生と元気よく朝の会を行っていました。

「画面越しだけど、久しぶりにマスクをしていないみんなの顔が見ることができて、とてもうれしいです。」

先生方は、子どもたちの表情をモニターで確認しながら、タブレットを使って授業を開始しました。しかし、初めてのオンライン授業でしたので、トラブルも発生しました。多くのタブレットを同時に使ったことで回線が混雑し、画面がフリーズしてしまったり、マイクがブロックされて声が聞こえなかったり、ミーティングに入らなかったり・・・。

それでも、急きょ教材や黒板を直接、カメラに写す形に切り替えて進めたり、GIGA スクールサポーターの長浦先生が対応してくださったりして、臨機応変にオンライン授業を進めることができました。

「一緒に触れ合えないのは寂しいけど、画面を通して、友達に会えるのでうれしかったです。」

毎日、全職員で成果と課題を共有し合って乗り越えたオンライン授業。これからもGIGA スクール構想の実践を積み重ね、「新しい授業様式」を見いだしていきます。

文責 教頭 松永

広がる思い

先日、大学生になった卒業生が会いに来てくれました。「附属は、子ども同士はもちろんだけど、子どもと教師、実習生とも仲がいい。今でも最高の思い出です。」という言葉聞き、嬉しくなるとともに、その流れから当時の実習生だった5年2組の中村教諭を呼ぶことになりました。

卒業生は、「お別れ会の時は涙が止まりませんでした。」「隣の学級だけどよく覚えています。」等と次々に思い出を語っていました。私は、その言葉を聞きながら10年以上たっても変わらない北斗の子と実習生の絆を誇らしく思ったところでした。

さて、今年も教育実習が始まっています。夢に向かってひたむきに取り組む実習生と目の前のことに全力で臨む北斗の子が互いに切磋琢磨する期間です。この期間は、熱い思いが校舎中に広がり、見ている方もパワーをもらえます。今年も楽しみです

文責 主幹 池田

2万冊

全国学力・学習状況調査が公表されました。今年度の調査で新たに「家庭の蔵書数」の調査が実施されました。その結果、蔵書数が最も多い子と最も少ない子では、正答率に18ポイントの差があり、蔵書数が多い方が正答率が高くなる傾向が見られるという結果が明らかになりました。

本校の図書館の蔵書数は約2万冊を誇ります。全国平均が約1万冊ですので2倍です。北斗の子の年間平均貸出数は110冊、多い子では266冊です。子どもの成長には経験が必要です。しかし、実体験が難しい現在、読書を通じた疑似体験を通して子どもの経験量を増やす必要があります。そう考えると、読書量の多さも北斗の子の学力を支える一因かもしれません。

さて、図書館のお世話をしてくださっているのが学校司書の森下睦子さんです。本校の学びを支えていただいております。

文責 教務 橋田